学生向け企画・ランチョンセミナー報告

産官学協力委員会　メタウォーター㈱　古　屋　勇　治

1．はじめに

水環境学会の学生会員を対象に，さまざまな水環境関連企業の業務内容について理解し，その仕事に興味を持ってもらうことを趣旨とし企画した，ランチョンセミナー「水環境ビジネスガイダンス～水環境の仕事に興味のある学生の皆さんへ～」が，年会の２日目の昼に実施された。今回で５回目となるこの企画は，とくに，日頃の就職活動等では十分に得ることのできない仕事の楽しさ，魅力，やりがいや苦労，学生時代に学んだ専門分野との関係などについて，第一線で活躍している若手技術者から直に聞く機会を提供するものである。今回の発表は，昨年度参加予定であった企業４社であり，年度末で多忙な時期に技術者を派遣してくださったことに，この場を借りて厚く感謝を申しあげたい。

セミナーは午前の発表時間終了後の 12 時 20 分に開始し，発表・質疑応答を含めポスターセッション開始時間の午後１時 30 分に一旦終了し，発表者の方々には午後２時まで個別に質疑応答に対応してもらうこととした。

参加学生は 106 名，会場は 150 名程度収容でき，大型スクリーンの他，モニタも数台設置されているため，資料も見やすく，比較的ゆったりと昼食をとりながら，終始，和やかな雰囲気でセミナーは進行した（**写真１**）。

2．ガイダンスの概要

当日の若手技術者からの発表については，学生の関心や興味があると思われる内容を考慮し，個別企業の宣伝や仕事の詳細な説明は避け，近年のアンケート結果や質疑応答での内容を踏まえて，事前に担当委員から説明内容を提示して依頼した。内容は，1：会社の事業概要と主要な顧客，2：担当業務と学生時代の専門との関係，3：業務に対する「やりがい」「楽しさ」を説明してもらい，後半の質疑応答への話題提供となるよう簡潔に要領よくまとめてもらうことを心掛けていただいた。

写真１　発表風景

2.1　若手技術者の発表

⑴　ライオン株式会社　阿彦恭子氏

阿彦氏は会社の研究開発部門をサポートする支援研究部門に所属し，製造販売する製品の人や環境に対する安全性の評価を担当している。はじめに，製品と水環境のかかわりや，会社の求める技術人材像を説明いただいた。学生時代は，生化学や分析化学を専門としており，入社後には，専門外の動物実験や安全性評価にとまどいながらも，学生時代に培った理論的な考え方や，さまざまな年齢，人種，分野の人との仕事をとおして不安やギャップを克服した体験談を紹介いただいた。仕事へのやりがいは，関わった製品が販売されているのを見かけること，仕事の楽しさは，社内外の人々と関わりあえ，広い視野（ヒト健康・環境）をもってグローバルに仕事ができると感じていることであった。

⑵　メタウォーター株式会社　安藤直哉氏

安藤氏は研究開発部門に所属し，海水淡水化の技術開発を担当している。はじめに 2050 年に水利用が困難な地域を世界地図で説明いただき，自らかが関わっている水ビジネスのスケールの大きさが感じられた。学生時代は浄水処理技術の研究に携わり，その時に学んだ水処理に関する基礎知識や，研究を進めるうえで培った問題解決のための思考が現在の業務に活にかされている体験談を紹介いただいた。また，入社後すぐに海外での大きなプロジェクトに参加して，慣れない外国生活でのつらい経験を紹介してくださった。安藤氏が感じている仕事のやりがいは，世界における水需要に関する業務であること。楽しさは，事態を打開する実験結果が得られた時や国外での業務で様々な文化に触れられることなどが紹介された。

⑶　前澤工業株式会社　中村　洋氏

中村氏は，浄水設備・システムの提案，PR，設計の業務に従事しており，会社の事業や顧客との関わりを紹介いただいた。学生時代は消毒副生成物の研究行っており，その時の水道施設，水質の関連知識が，現在の業務である浄水設備を設計，検討するうえで生かされている。中村氏が感じている仕事のやりがいは，自分自身の設計した設備が建設され人々の生活を支えていると思えることであり，仕事の楽しさは，さまざまな課題を抱えている顧客に対して自ら考えた改善策を提案し，どうすれば他社よりも魅力的な提案ができるかを考えることであった。

⑷　株式会社明電舎　辻野雅子氏

辻野氏は飲料用浄水設備の設計，コンサルタント，専用水道設備の維持管理業務に従事している。学生時代は化学工学が専門で，そのなかでも反応工学，分離工学，プロセスシステム工学が現在の業務に役立っていて，水処理の知識は入社してから習得している。また，電気メーカではあるが，電気の設計に携わることはほとんどない

写真２　質疑応答風景

こと，仕事のやりがいは世界で大きな規模を占める水ビジネスや水道というインフラに関わる仕事をしていることや，体力勝負の仕事もあると紹介していただいた。

2.2　質疑応答

質疑応答時間は 10 分程度しか取れず，発表者 4 名に登壇していただき（写真２），企業での研究開発との違いや大学院後期課程後の進路選択の迷いなどの質問があり，それぞれの意見やアドバイスをいただいた。その後の個別質問は 14 時までの予定であったが，４～５名程度の学生が各発表者に入れ替わり立ち代わり質問し活発な意見交換が行われ，会場を後にしたのは 14 時 30 分頃となった

３．アンケート集計結果

参加した学生の希望就職先状況やガイダンスの満足度についてアンケートを実施した。参加学生の所属構成は，大学院前期課程の学生 68%，学部学生 20%，大学院後期課程の学生７%，高専の学生３% であった。セミナーへの参加動機は，水環境分野への仕事に従事したい 29%，水環境関係の仕事に興味がある 30%，就職活動の参考 24% であった。将来目指す業種についての回答は，水環境関係のプラントエンジニアリング企業 24%，水環境関係のコンサルタント 17%，水環境関係の装置・分析機器製造業 14%，大学・公的研究機関 13%，公務員 10%，その他 10%，水環境関係の土木建設業６%，化学工業６% との結果であった。企業の仕事で興味のある部門は，研究開発部門 40%，技術･設計部門 33%，営業，建設・工事部門，総務企画部門がそれぞれ数 % の回答であった。今回のガイダンスについて，82% の学生が参考になったと答えていた。

記述形式の質問では，参考になった点として，大学での研究と仕事の違い，仕事上のつらい話，学生時代とのかかわり，など生の声が聞けたことなどが多く挙げられ，大学時代の専門と業務との関係が聞けたのもよかったようである。また，就職活動の幅が広がったことや企業研究で考慮していなかった企業の内容を知ることができたなど，大変参考になったとの意見であった。

一方，発表時間を長くとの意見や，企業研究をしている学生にとっては，企業紹介を短くして，個人の体験談をもっと聞きたいとか，他の分野の話も聞きたい，就職活動期間での開催を願う声，理科系・技術系以外の社員の方の話が聞きたい，留学生向けの説明がほしいなどの意見もあり，今後の検討内容や課題が見えてきた。

４．総括

会場の和やかな雰囲気や活発な質疑から，学生は前向きに水環境の仕事に携わることを考え，自分自身の目指す業務を担当している生の意見を知る機会を求めていることが窺えた。とくに，今回の発表者の方々も就職に際しては苦労を経験し，学生時代の専門と異なる仕事に携わり，さまざまな人との協力で，それらを克服して現在は第一線で活躍している様子を，身近に聞くことで学生達が自分自身の将来像を一部ではあるがイメージできたと思われる。

今年もこの企画は多くの学生に好評で成功に終わったが，より多くの要望があることがわかった。今後は，学生が参加しやすい方法の検討も含め，学会独自のガイダンスの充実を図っていければと考えている。